



国際協力

70th



鷹の爪団が解説する

ODA 読本 6巻

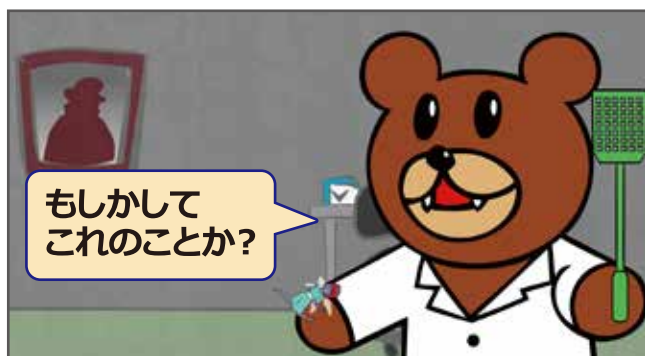
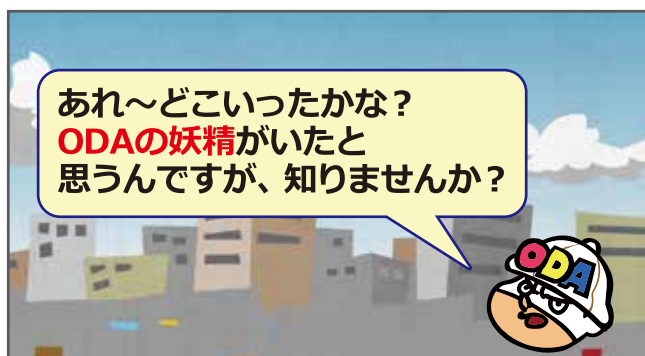
オーディーエー

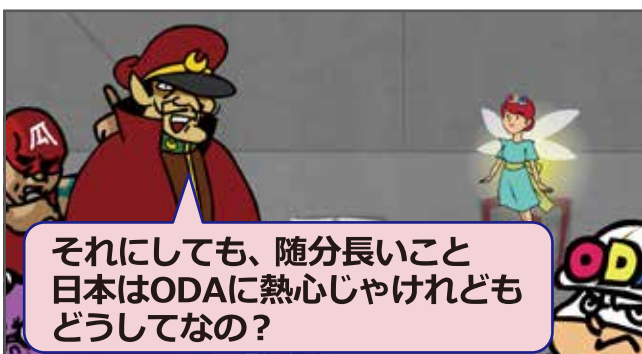
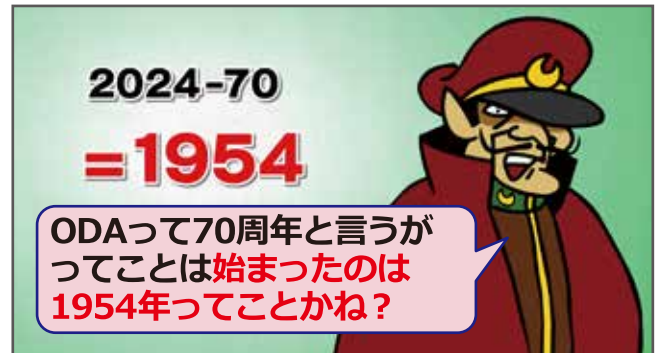
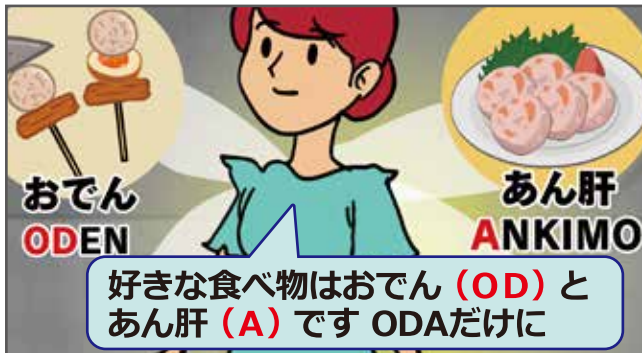
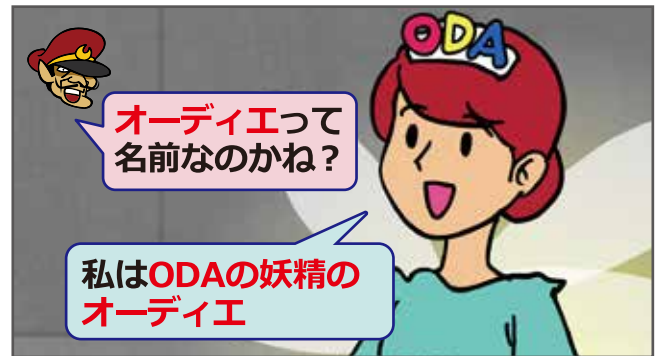
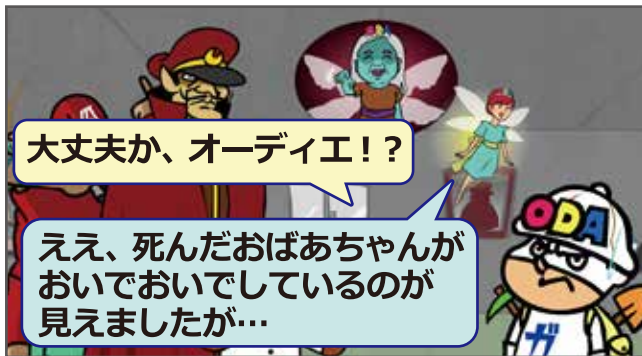


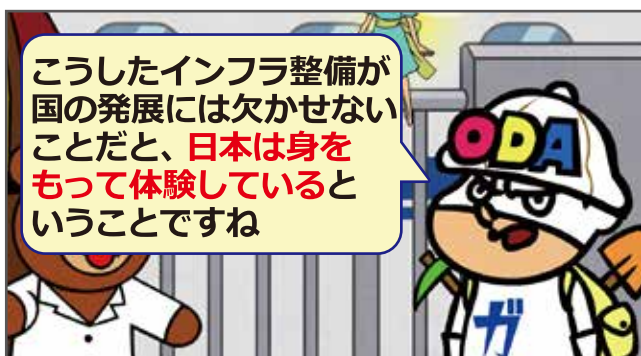
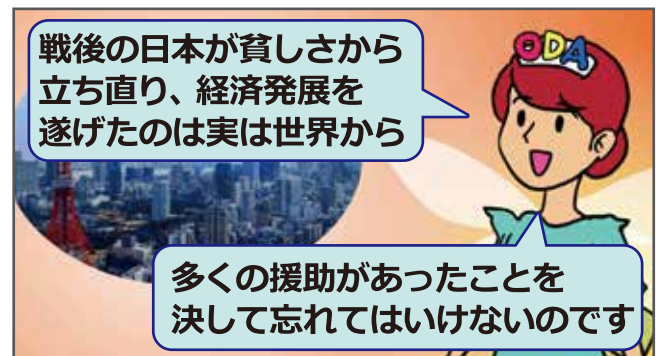
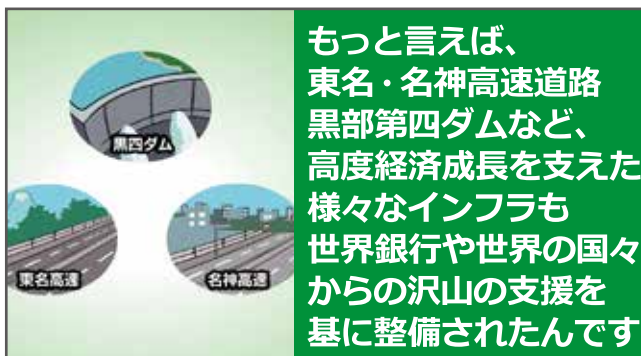
はじめに

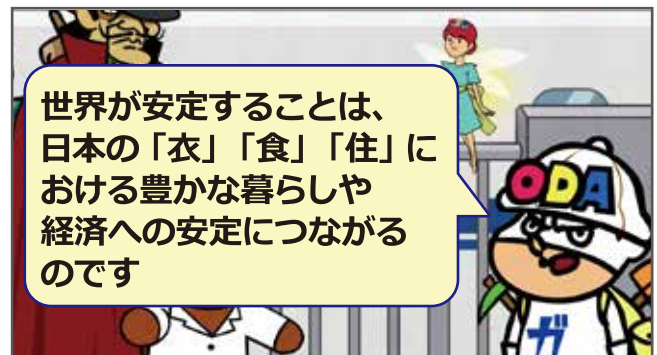
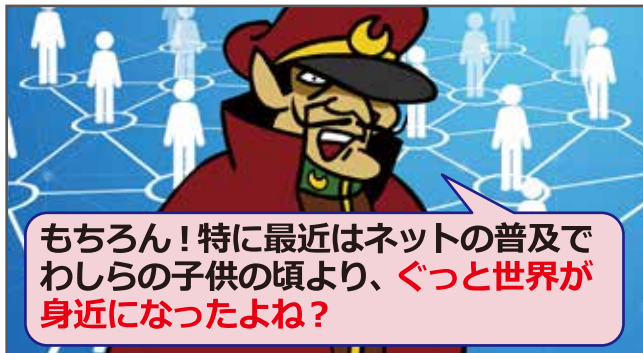
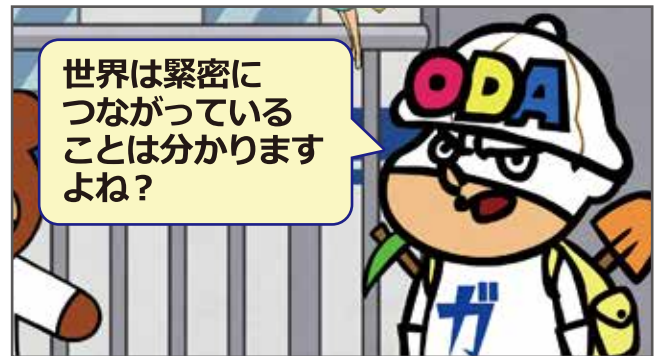
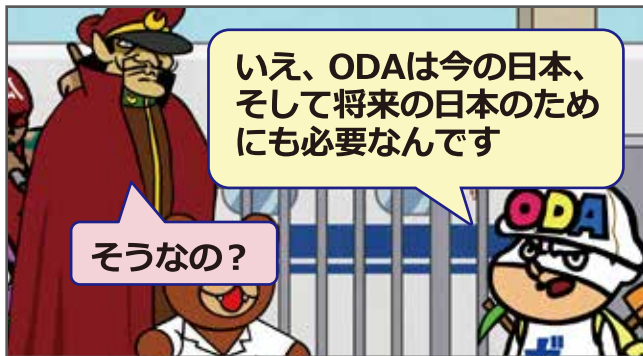
みなさん、こんにちは! **「ODAマン」**です。
鷹の爪団が解説する「ODA読本」の6巻目!
2024年は、日本が国際協力を開始してから
なんとなんと! **70年の節目に当たる年**なんですよ!
70歳っていったら人間でいうと還暦もすぎて
もう古希(こき)のお祝いの年なんです。
こんなに長い年月、世界のいろんな国のみなさんと
協力を続けてきたわけなんですね!
この読本では**「国際協力70周年」**を記念して
ODAのこと詳しく紹介するので、ぜひ読んでくれよな!

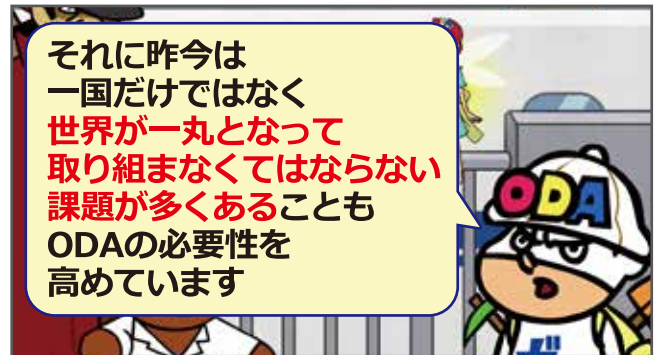
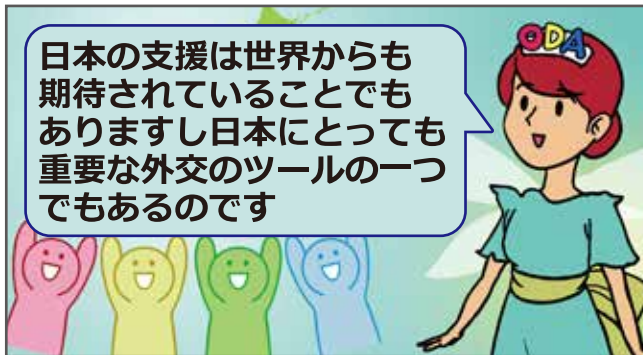












誰ひとり取り残さない



『人間の安全保障』

日本は以前から、『**人間の安全保障**』という考え方で支援をしてきました
これは弱い立場の人たちを含め
一人ひとりを守りながらその人たちの力を
引き出して、みんなが幸せに生きられる
ようにすることを目標にしているんです

日本のODAの特長



過去の動画も見えね!

日本のODAは単に
資金や施設を用意
するだけでなく
**現地の人が自立
できる仕組み作りも
やってるもんね**



継続して支援が
受けられなくても

がんばる!!

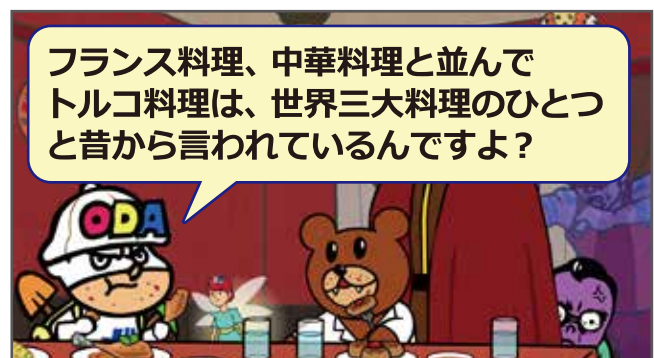
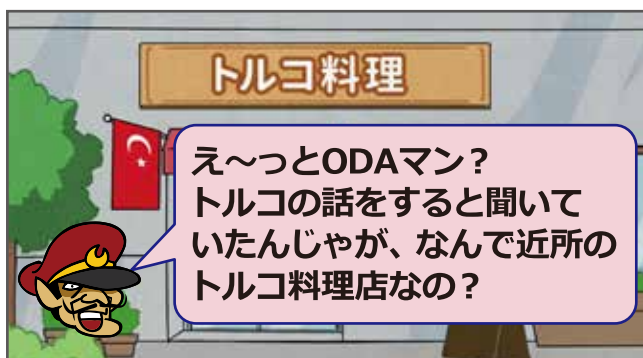
現地の人々が
自分たちの力で
生活を立て直し

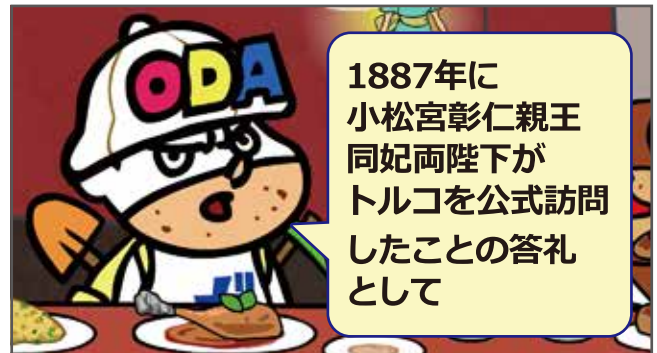
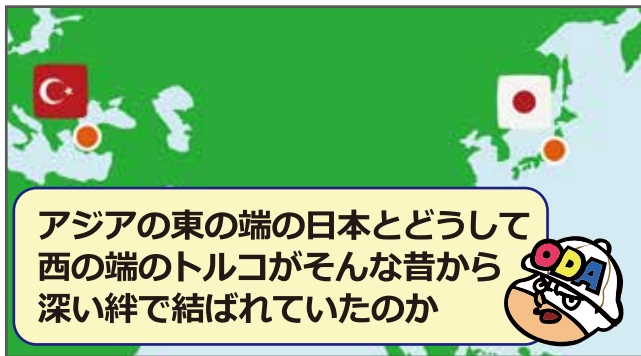
発展させていけるように
サポートしているんです

これからも
国際情勢がますます
複雑になる中で
こうした人づくりの
支援はもっと
必要になってきて
いるんですよ

なるほどねえ…
何から何まで支援する
には限界があるもんね



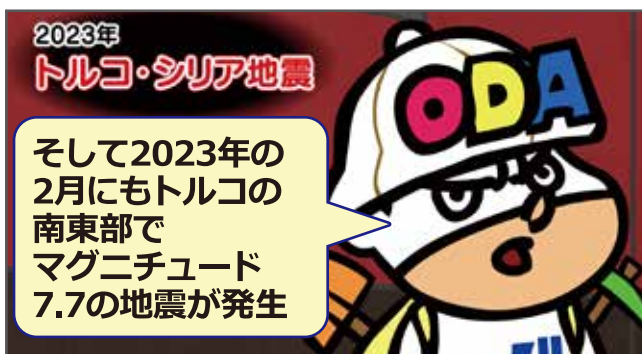






そこで日本は国際緊急援助隊の迅速な派遣や阪神・淡路大震災の際に使用されていた仮設住宅をトルコ政府に提供するなど積極的に緊急人道支援を行ったんです

そして東日本大震災の時には、トルコ政府は32名の救援隊を派遣して、約3週間にわたって活動しました
更に支援物資として約60,000個の缶詰、18.5トンの水、5,000枚の毛布が提供され、被災地に届けられました
被災地に派遣されたトルコ隊員からは「1999年のトルコ北西部地震で最も早く救助隊を送ってくれた国の一つが日本
その恩返しの気持ちで活動した」という言葉もあったそうです

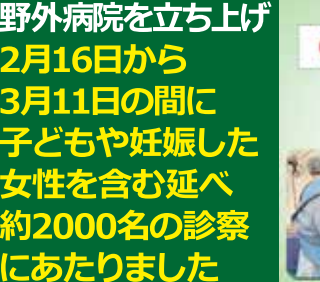


2023年 トルコ・シリア地震



救助チームは
発災当日に
日本を出発して
翌日から
行方不明者の
捜索・救助活動
を行いました

2023年 トルコ・シリア地震



また医療チームは
野外病院を立ち上げ
2月16日から
3月11日の間に
子どもや妊娠した
女性を含む延べ
約2000名の診察
にあたりました

2023年 トルコ・シリア地震



また建築・免震・
耐震技術等の
専門家チームは
復旧・復興に向け
た現地調査を行い
トルコ政府に対して
提言を実施して
います

2023年 トルコ・シリア地震



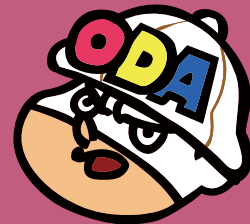
その他にも必要な
資材や機材を自衛
隊機によって輸送
したり、緊急援助
物資の供与や資金
援助などを行って
います

日本の復旧復興支援



上下水道インフラ
住宅の修復・新設
中小企業の支援
瓦礫の集積・保管
リサイクル

専門家の提言にも基づき、震災後の復旧・復興支援としても、被害を受けた上下水道インフラ・住宅等の修復・新設の支援や被災した中小企業の事業再開、雇用回復のための金融支援、更に国際機関と連携しアスベスト等の有害物質を含むがれきの集積地や一時保管場所の特定、がれき除去や管理計画の策定、がれきリサイクル施設の整備など、災害対応大国日本の知見を活かした様々な協力が今もなお、続いています




いやあ〜! 手厚いねえ
日本の支援!

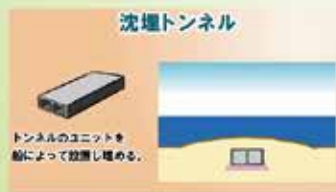
そうです



ドネルケバブのように
あついですよ

そういえば過去にも、日本の
円借款で建設された

第二ボスポラス海峡大橋やボス
ポラス海峡横断地下鉄のトンネル
とか、いろいろ経済協力もした
話題をしたよね?



政治

経済



防災

文化

近年では政治、経済、
防災、文化と幅広い
分野でますます発展
を遂げ国際情勢でも
存在感を増している
トルコですが



『まさかの時の友こそ
真の友』という諺通り



「まさかの時の
友こそ真の友」



困難な状況の中でも
数千キロの距離を隔てて
支え合ってきたのです

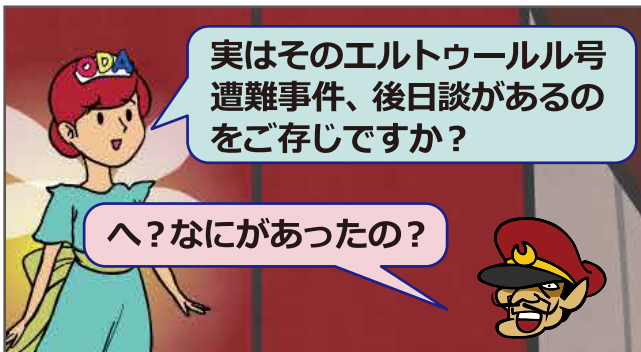


それが
エルトゥールル号
遭難事件が最初の
きっかけだったわけ
かあ...



実はそのエルトゥールル号
遭難事件、後日談があるの
をご存じですか?

へ? なにがあったの?



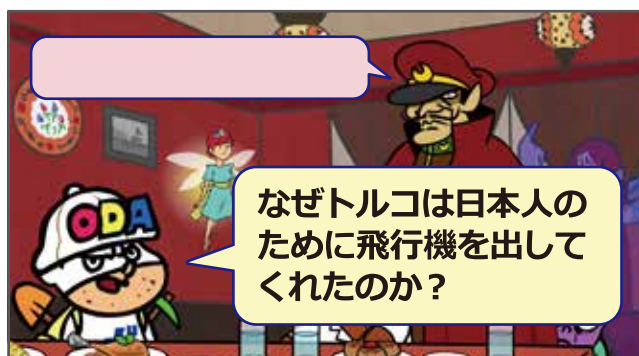
1985年イラン・
イラク戦争の最中
イラクがイラン領空
を飛ぶ全航空機を
攻撃対象にする
発表を行ったのです

1985年 イラン イラク戦争

すべての航空機、
撃墜するから!



イランに住んでいた日本人は慌てて出国を試みましたが、航行の安全が確保できないなどの理由から航空機の数に限られたため搭乗できず



のちに駐日トルコ大使のネジアティ・ウトカンさんは当時のことを次のように語りました

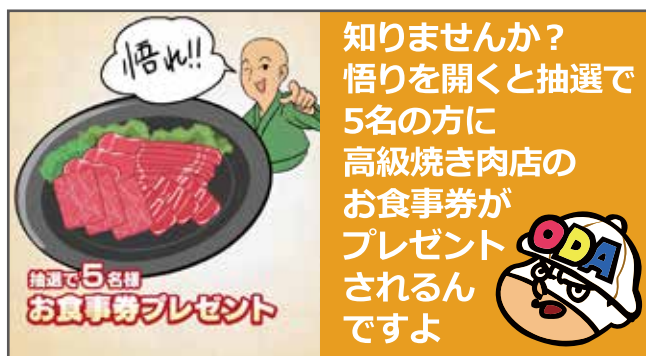
エルトゥールル号の事故に際し日本人がしてくださった献身的な救助活動を、今もトルコの人たちは忘れていません

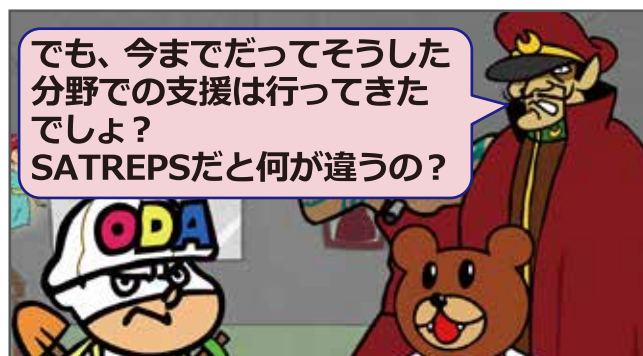
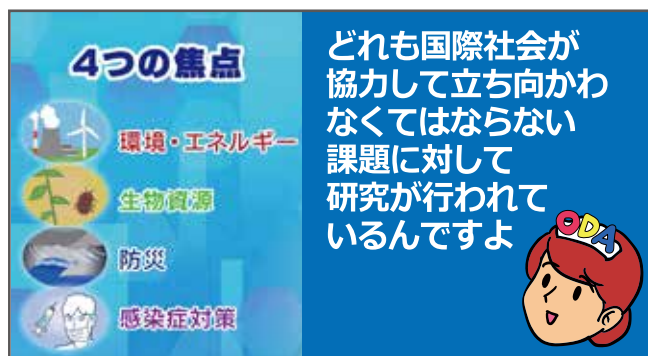
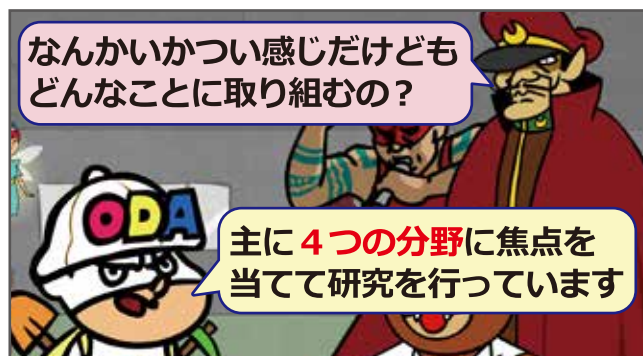
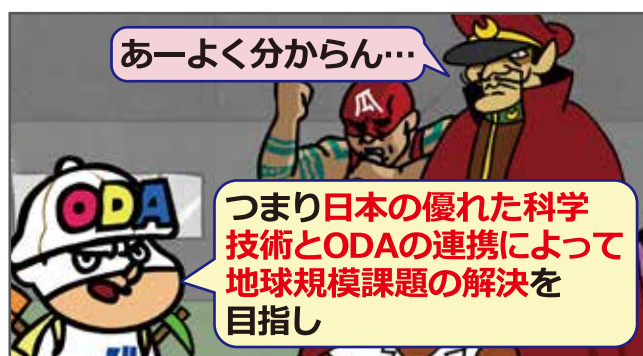
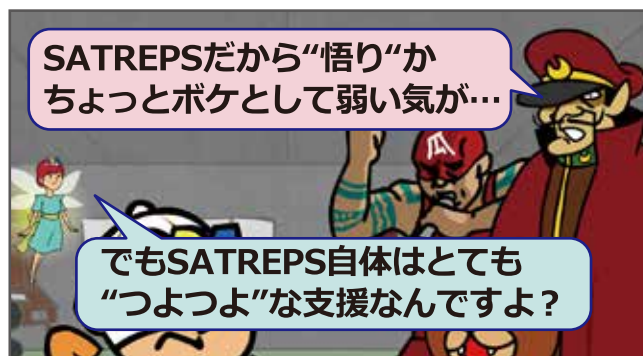


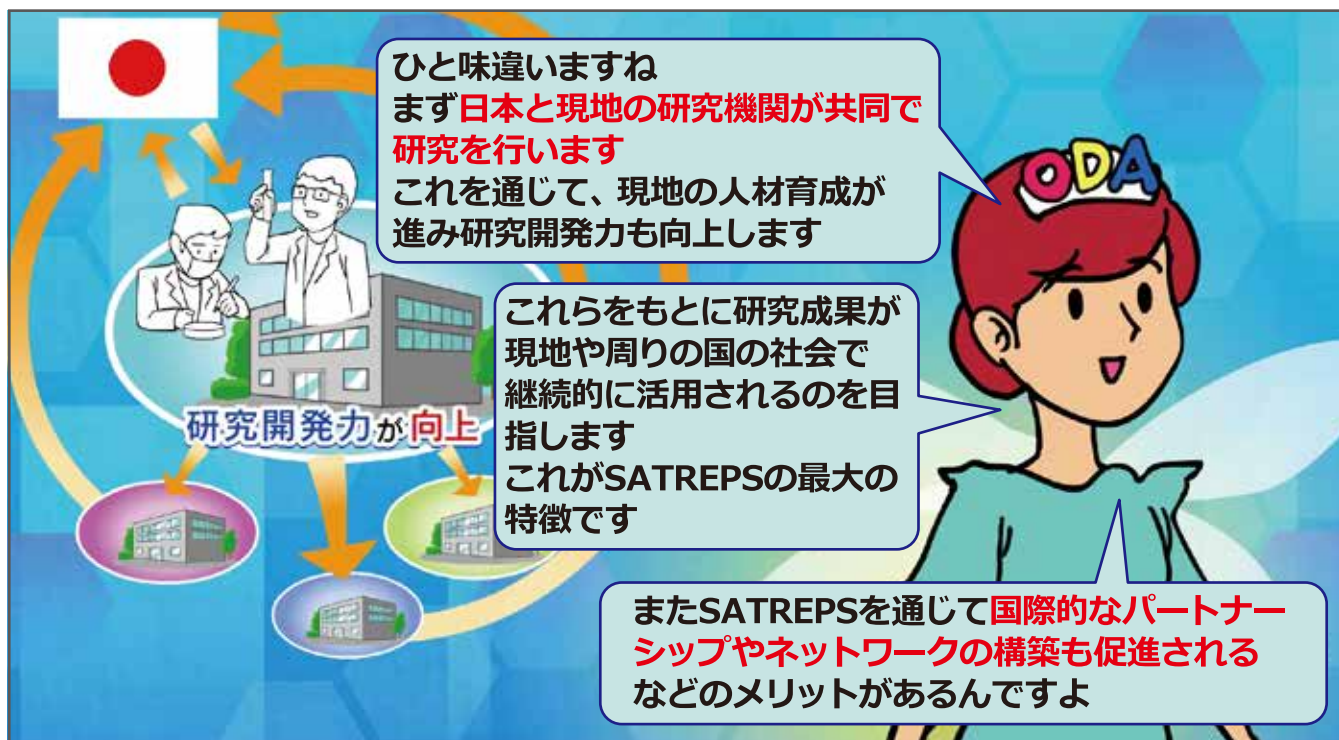
元駐日トルコ大使
ネジアティ・ウトカン氏









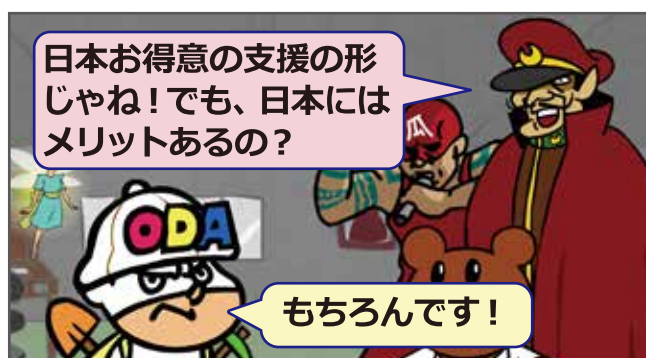


ひと味違いますね
まず**日本と現地の研究機関が共同で研究を行います**
これを通じて、現地の人材育成が進み研究開発力も向上します

これらをもとに研究成果が現地や周りの国の社会で継続的に活用されるのを目指します
これがSATREPSの最大の特徴です

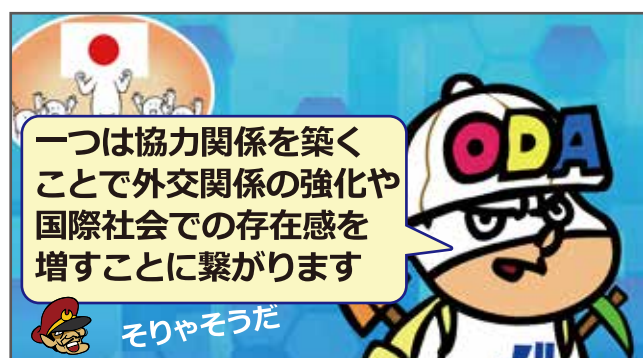
またSATREPSを通じて**国際的なパートナーシップやネットワークの構築も促進される**などのメリットがあるんですよ

研究開発力が**向上**



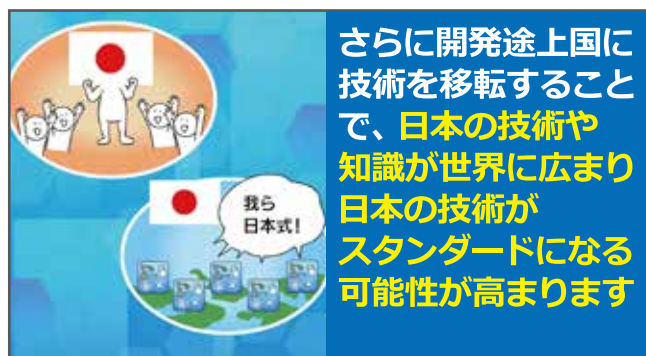
日本お得意の支援の形じゃね!でも、日本にはメリットあるの?

もちろんです!



一つは協力関係を築くことで外交関係の強化や国際社会での存在感を増すことに繋がります

そりゃそうだ



さらに開発途上国に技術を移転することで、**日本の技術や知識が世界に広まり日本の技術がスタンダードになる可能性が高まります**

我ら 日本式!

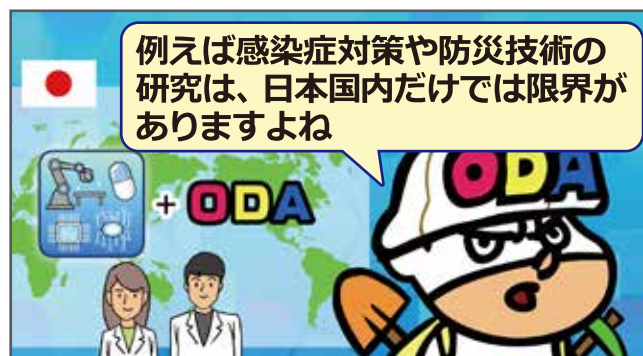


そうか!日本の基準が世界の基準になるということか!

日本基準 = 世界基準

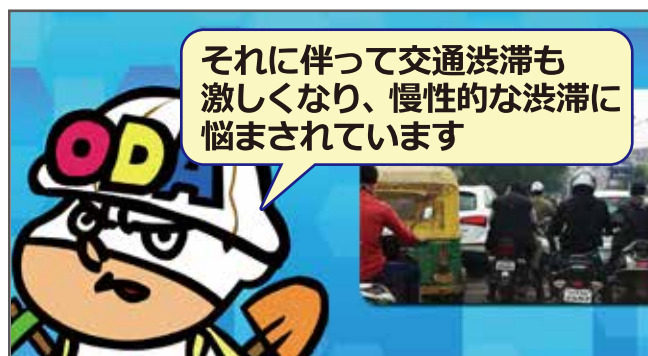
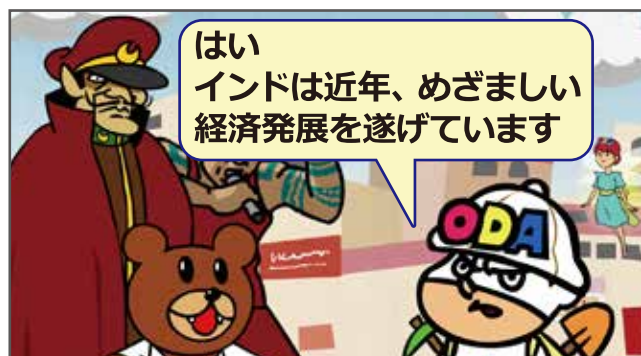
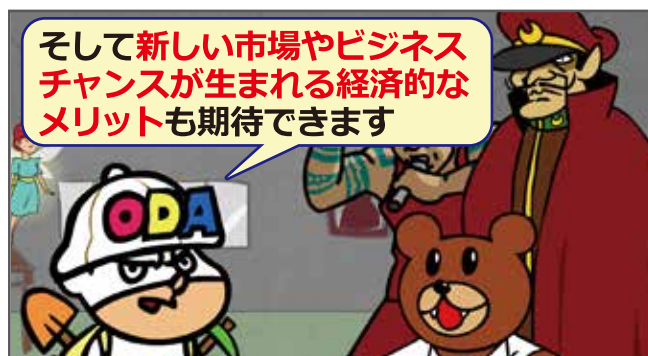
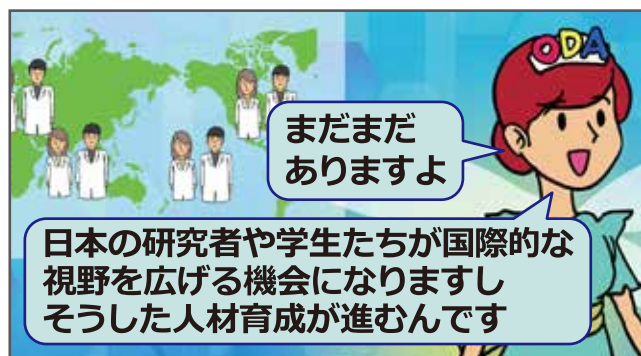


またSATREPSを通じて得られた研究成果は、**日本国内の科学技術の進展にもプラスになるんです**



例えば感染症対策や防災技術の研究は、日本国内だけでは限界がありますよね

+ ODA



人や物流の停滞だけでなく交通事故や大気汚染による健康被害、エネルギー問題や二酸化炭素の排出なども深刻になっているんですよ



そこで、60年以上も日本にて交通情報板を手掛けた実績をもつ名古屋電機工業のシニアエキスパート坪井務博士が



名古屋電機工業
坪井 務博士

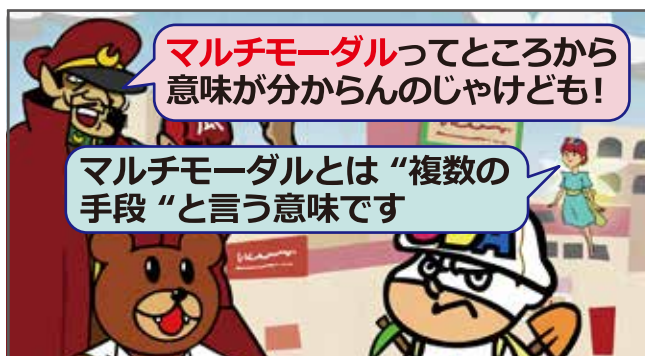
現地のインド工科大学ハイデラバード校と『マルチモーダル地域交通状況のセンシング、ネットワークングとビッグデータの解析に基づくエネルギー低炭素社会実現を目指した新興国におけるスマートシティの構築』を目指して研究が進行中です



長いね!!



インド工科大学ハイデラバード校

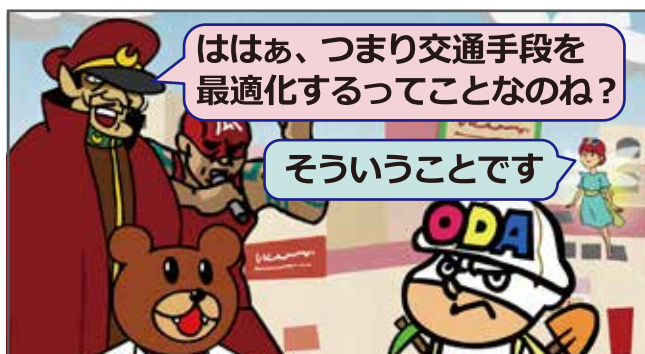


開発したアプリを使って行き先を入力すればどの交通手段を使うと効率的に目的地に行けるかが分かるようになるのです

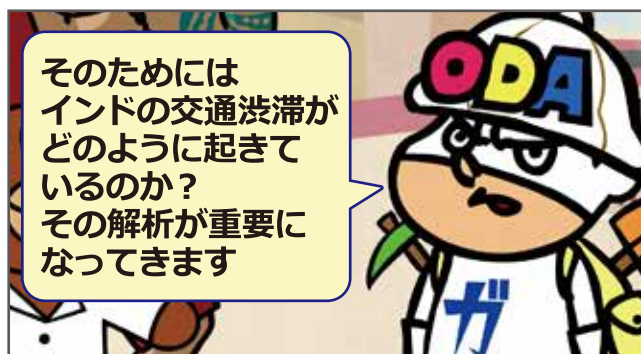
“マルチモーダル”=“複数の手段”



行き先を入力
交通手段選択
行動開始



そのためにはインドの交通渋滞がどのように起きているのか? その解析が重要になってきます



そこで坪井博士は
現地の大学と共同で
各所に道路状況を
観測するセンサーを
設置、毎日上がって
くる膨大な**びっくり**
データを解析して…



ビッグデータでしょ?



そうです
ビッグデータをもとにし
て渋滞の原因とその傾向
を割り出したのです

ビッグデータ

でも上がってくるデータが
本当にカオスで交通流と
言うより**ほぼ濁流**



逆走しちゃってる人も
いるよ!
それに道の真ん中で
牛さんが座ってるし!



確かにこれは
びっくりデータじゃ

そうなんです

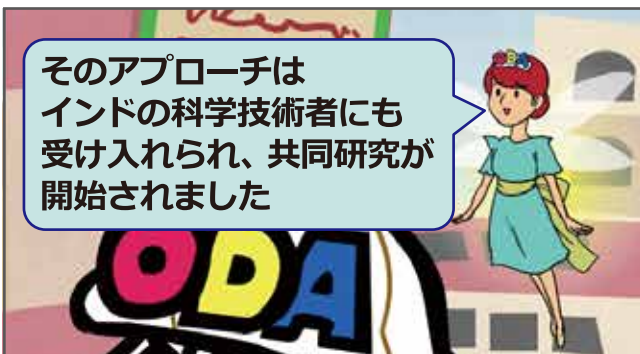


そこで坪井博士は
これを**水や液体の**
流れに例えて
流体力学で解釈する
新しいアプローチを
提案したそうです

流体力学か!



そのアプローチは
インドの科学技術者にも
受け入れられ、共同研究が
開始されました

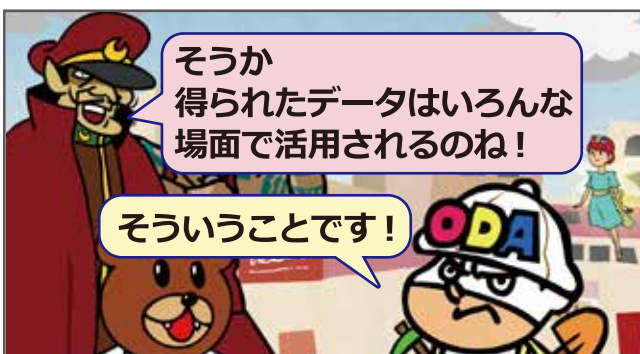


そして得られた
データは、信号の
最適化、公共交通
機関の整備、自動
運転技術の開発にも
役立てられるのです



そうか
得られたデータはいろんな
場面で活用されるのね!

そういうことです!

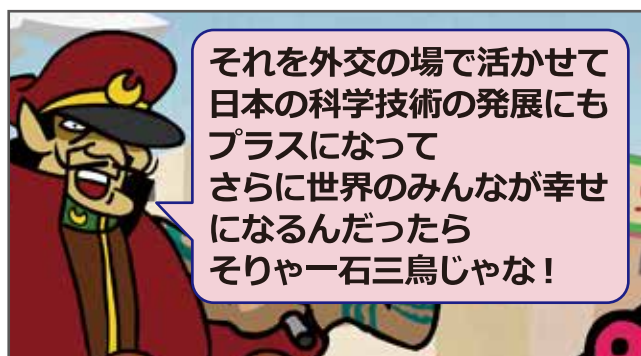
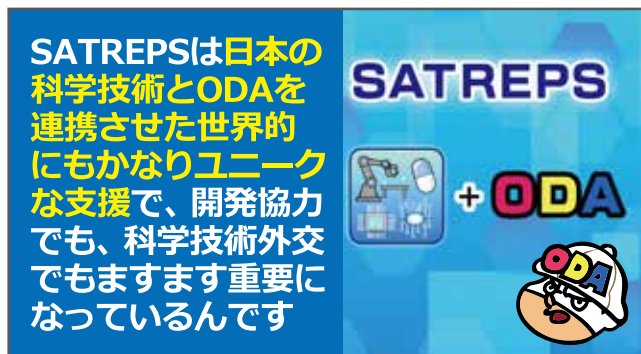
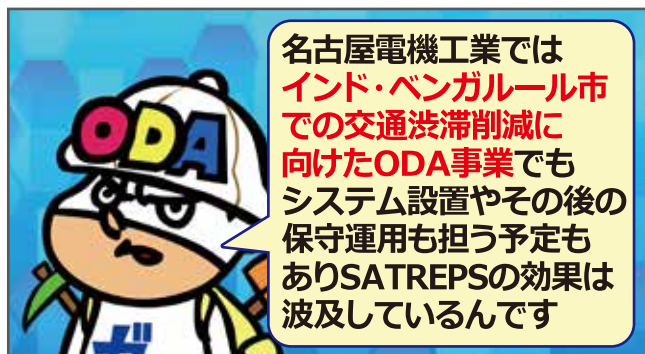


日本の知見や技術力
に加え、相手国の
立派な研究機関の
存在があり、共創
することが事業の
成功にもつながっ
ているんです



共創







ODA 鷹の爪

検索

